

研究実施責任者	プロジェクト名	期間	配分額(円)
看護学部・准教授 内川 洋子	高知県安芸保健医療圏における在宅医療福祉施設の看護力を高める持続可能な看護現任教育プログラムの開発	H30-R1	1,680,000
研究概要			
<p>本学の「地域・現場の重要課題を取り上げ、それらの課題を解決する研究を戦略的に実施する」第2期中期計画に基づき、高知県の安芸保健医療圏の病院、訪問看護ステーション、介護施設等に従事する看護職者の看護力の向上を目指した持続可能な看護現任教育プログラムを開発するもので、人材育成の視点から在宅保健医療福祉における地域課題に貢献できる新たな挑戦となる事業である。</p> <p>高知県では全国に先駆けて高齢化が進む中で、看護師等の量的確保と資質向上、さらに中山間地域での活動の場の拡大が求められている。さらに地域包括ケアシステムの推進により、地域の病院や在宅系サービスで勤務する看護師が力を発揮することで、在宅医療福祉施設において住み慣れた地域で暮らすことを支えることが求められている。</p> <p>高知県は人口当たりの病床数、医師数、看護師数などの医療資源は全国でも最高水準を誇るが、それらは中央医療圏に一極集中しているため、新卒やUターンの看護師等が安芸保健医療圏の在宅医療福祉施設を就職先に選択して定着する取り組みが必要となる。さらに中小規模病院における教育・研修体制としては、責任を担う者が複数の教育・研修担当を兼務し、訪問看護ステーション・介護施設では看護職者の数も少なく、自施設での教育・研修等の実施には限界がみられる。このように中央医療圏以外の地方における在宅医療福祉施設においては、人材不足、研修等のための組織の未設置など、自医療圏において新人看護師教育、現任教育が十分に機能しておらず、地域参加型の取り組みが必要である。</p> <p>本研究の目的は、独立して自組織の看護職者に対する現任教育に課題を抱え、中央医療圏における看護現任教育プログラムに継続して参加することが難しい状況である、安芸保健医療圏の中小規模病院や訪問看護ステーション、介護施設等において、近隣在宅医療介護施設における施設および人材のネットワーク化を構想し、地域の看護職者とともに持続可能な看護現任教育プログラムの開発を行うことである。</p> <p>予想される成果としては、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護管理者、看護教育担当者、看護職者を中心とした、施設及び人材のネットワークが作られ、持続可能な現任教育プログラムの基盤ができる。 ・看護の資質向上を推進する現任教育のモデルとして活用することができる。 			

研究 成 果

安芸保健医療圏の病院、医院・診療所（20床未満）、医院・診療所（無床）、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、特別養護老人ホームに勤務している看護職者を対象に質問紙によるデータ収集を行い、当該医療圏における看護現任教育の現状と課題について分析した。本研究は高知県立大学研究倫理委員会の承認を得て行った。安芸保健医療圏内にある全ての上記施設の内、研究協力の承諾を得た施設に勤務する看護職者全員に調査票の配布を依頼した。配布数 509 部、回収数 503 部（回収率 50.7%）、有効回答数 250 部（96.9%）であった。その結果、研修に関する希望は、新しい知識やスキルアップに繋がる、日帰りで受けられる時間設定や会場、基礎的な学び直しができるが多かった。研修への参加を妨げる要因は、日程・時間調整が難しい、研修開催地まで遠い、家庭の事情があげられた。（表 1）。

		n=250（複数回答）	
項目	名（%）	項目	名（%）
看護実践能力を向上するための取り組み		研修への参加を妨げる理由	
所属する施設内の研修等に参加する	161（64.4）	日程調整・時間調整が難しい	155（62.0）
仕事に関連する本や雑誌を読む	155（62.0）	研修開催地まで遠い	135（54.0）
気がかりとなった看護の実践、仕事について、振り返る	121（48.4）	家庭の事情（育児、介護、家業等）	102（40.8）
所属する施設外の研修等に参加する	120（48.0）	興味がある研修がない・少ない	39（15.6）
講演会、公開講座に参加する	75（30.0）	現在の環境で、必要な研修を受けている	23（9.2）
学会に参加する	51（20.4）	その他	22（8.8）
ケアカフェ、事例検討会など施設を超えた活動に参加	34（13.6）	研修へ希望すること	
その他	9（3.6）	新しい知識の獲得やスキルアップにつながる	197（78.8）
研修に関する情報の入手先		日帰りで受けられる時間設定や会場	187（74.8）
職場からの案内	224（89.6）	基礎的な学び直しができる	104（41.6）
看護協会からの案内	103（41.2）	看護の専門性や役割について探求できる	86（34.4）
インターネットのホームページ	51（20.4）	実践の振り返りができる	86（34.4）
友人から	30（12.0）	職場の活性化につながる	71（28.4）
新聞・ラジオ	16（6.4）	他の職場の看護職者との交流ができる	57（22.8）
その他	15（6.0）	その他	6（2.4）
SNS(フェイスブック、等)	9（3.6）		

看護実践能力向上のために必要だが職場や近隣で受講が難しい内容は、連携のためのスキル、緩和ケア、在宅での看取り、看護の動向と課題、患者や家族とのコミュニケーション、施設での看取り、スタッフ教育の順が多かった（表 2）。

看護管理者はスタッフに比べて「自施設の看護の役割の変化」「多職種との連携で看護の視点で意見が言える」「自施設の看護の在り方について語り合う機会がある」「看護実践上の課題について参加者と共有し、振り返る機会への参加希望」「スタッフ教育について参加者と共有し、振り返る機会への参加希望」が有意に高かった（ $p < 0.01$ ）

表2 職場・近隣で受けることができない実践能力向上のために必要な研修

		n=250 (複数回答)	
項目	人数 (%)	項目	人数 (%)
ケアの方法や技術		対象の理解とケア	
緩和ケア	89 (35.6)	がん看護	73 (29.2)
患者や家族とのコミュニケーション	75 (30.0)	家族看護	72 (28.8)
急変時の看護	67 (26.8)	終末期看護	72 (28.8)
患者の理解に関すること	57 (22.8)	認知症看護	68 (27.2)
フィジカルアセスメント	55 (22.0)	摂食、嚥下障害のある人の看護	65 (26.0)
褥瘡ケア	51 (20.4)	高齢者看護	58 (23.2)
診療の補助技術	42 (16.8)	精神看護	55 (22.0)
看護援助技術	39 (15.6)	小児看護	50 (20.0)
医療安全	36 (14.4)	急性期看護	49 (19.6)
感染対策	35 (14.0)	母性看護	48 (19.2)
看護の基礎や応用		慢性期看護	
連携のためのスキル	89 (35.6)	在宅支援、地域包括ケア	
看護の動向と課題	83 (33.2)	在宅での看取り	87 (34.8)
スタッフ教育	74 (29.6)	施設での看取り	74 (29.6)
看護研究	51 (20.4)	在宅看護	70 (28.0)
看護倫理	43 (17.2)	地域医療連携	67 (26.8)
看護管理	40 (16.0)		

当該地区のデータ分析に基づき、安芸保健医療圏の看護職者の看護力を向上する持続可能な現任教育に関する教育プログラム（案）を検討した。

①多岐にわたる研修希望の内容

- ・ 本学に既にある地域貢献プログラム（看護学部で開催している公開講座、看護相談室、健康長寿センターで行っている退院支援事業等）の活用により、現場の問題解決を支援する。そのためには、これらの研修プログラムを更新しながら、広報を強化する必要がある。
- ・ 公開講座においては、自施設での研修が難しい内容や本学の強みを取り入れた基礎的あるいは専門性に特化した内容を取り扱うとともに、看護相談室で事例検討を通して学ぶ方法を検討する必要がある。

②移動距離が長く、日程調整や確保が難しい

- ・ 近隣地（安芸市や田野町）での研修の開催、または遠隔地からの参加が可能となる遠隔教育についてツール選択、運営方法について検討する。
- ・ Web ミーティングのツール活用や運営方法を検討し、本研究期間中に看護相談室においてトライアルを行い、本学と県内の遠隔地の病院を Web 会議室システムでつなげた。遠

隔地から参加した看護職者から、夜中に移動しなくて済んだ、Web ミーティングを是非継続してほしいというフィードバックを得ることができた。

また看護管理者・看護教育担当者等へのインタビュー調査を行い、各施設の規模や機能にあわせた OJT (On the Job Training) や施設内外で開催される教育研修への参加により、現任教育が行われていること、地域の施設及び人材のネットワークに基づく情報共有が行われ現任教育へ影響を及ぼしていることが分かった。本研究の結果を基に、様々な施設で働く看護職者が一緒に振り返りを行い学習につなげる仕組みづくりについて継続して検討している。

成 果 物 等

【学術論文】

1. 内川洋子、大川宣容、長戸和子、森本悦子、森本紗磨美 (2019)「高知県の A 保健医療圏における看護現任教育に関する現状とニーズ」『高知女子大学看護学会誌』45: 141-152

【学会発表】

1. 第 39 回日本看護科学学会学術総会、口頭発表
内川洋子、大川宣容、長戸和子、森本悦子、森本紗磨美「A 二次保健医療圏における看護現任教育の現状とニーズ」

【マニュアルの作成】

1. 遠隔教育用の Zoom マニュアル等の作成